

3学期の重点課題

「行く1月、逃げる2月、去る3月」といわれるように、この時期は毎日が忙しく、あっという間に過ぎてしまいます。3学期は51日の授業日数で、1、2学期よりも随分少ないです。その3学期に学校として、3点を重点課題とします。

まず、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を更に進める中、授業の終わりの「振り返り・まとめ」をこれまで以上に大切にしてください。主体性を育むためには様々な手法がありますが、自分の学びを自分の言葉で振り返ったりまとめたりする活動を通して、次の課題に向けてのモチベーションを高めさせてください。要は終わりを大切にするという考えです。授業作りからは外れますが、より広い視野に立てば、一日の終わりを大切にするために帰りの会、下校指導もしっかりやっていきたいものです。さらには、学級・学年の振り返りとまとめを次年度につなげることも大切です。イメージとして、終わり始まりをつなぐところにひと手間かけるということです。

2点目は不登校対策です。毎月の総欠席者数は高く推移し、この3年間で一番生徒が休んでいる状況にあります。これまでの指導・支援のおかげで、月7日以上欠席する生徒は多いもののこの3年間で突出しているわけではありません。ただ、誰もが不登校になる可能性があるということは紛れもないことです。だから、2学期後半から始めた早めのケース検討の取組を続けたいと思います。軌道に乗るまでは校長主導で行いますのでご協力ください。ケース検討をする場合、情報は宝です。情報は多い方がありがたいです。そのためにも、まんべんなくすべての生徒との関わりを大切にしてください。教職員全員で全生徒を見ていくという姿勢で関わりをお願いします。同時に、すべての生徒にとって魅力ある学校、魅力ある学級、ひいては明日も来たいと思う学校になるようがんばっていきましょう。不登校対策の中期の目標は、「学びの保障」です。

3点目は、切れ目のない特別支援教育の推進です。多くの学校が新年度の5、6月ぐらいに新しい担任が中心となり個別の教育支援計画・個別の指導計画に見直しを加えます。今年度は、3学期の評価の際に現担当で修正を加えてほしいと思います。そして、4月からはそれをもって指導・支援を開始します。詳細は、コーディネーターの眞野先生から指示してもらいますが、現1、2年生の生徒分に修正を加えるためには、該当の生徒たちを重点的に見ていく必要があります。ベストは随時の見直しで、例えば、大きな変化や事案対応等のあとに修正ができればよりよいのですが、3学期中に新学年に向けた修正をしたいと思います。指導計画等を形骸化させない、また、困難な状況にある生徒にスポットを当てることにより、我々の対応力・指導力は向上するはずです。

我々教職員もしっかり振り返るときです。目的が達成できたかどうか、目的から常に考えたいものです。また、その目的達成のために思い切って「やらないこと」も決めたいものです。スクラップ&ビルドのスクラップの視点です。 (2024.1.9)